

全日本教職員組合 養護教員部ニュース

2019年8月

No.131

発行：情宣部

第29回 全教養護教員部定期総会を終えて

6月16日（日）第29回全教養護教員部定期総会を開催し、28組織から28人の代議員が出席し、2019年度の運動方針と役員体制を決定しました。討論では3つの柱にそって20組織のべ27本の発言がありました。

Iの柱『子どもの心とからだの健康保障』では、「改訂学習指導要領で小学校へも外国語が導入され、授業時数確保のために学校行事の精選や7時間授業、掃除をカットして学習の時間に充てている。子どもたちは落ちつか



ず、教室での全体への指導がとおりにくく、話を聞いていない子どもが増えている。集団が苦手な子どもや話を聴いてほしい子どもが増えている、保健室へ駆け込んでくる」「（高校生も）部活や勉強ですごく忙しくとても疲れていて、保健室に来て今の状況を話さないといられないのか、話をしたい生徒が増えてきた」と保健室から見える子どもの様子が出されました。また、昨夏の猛暑の影響で、県内全ての学校の普通教室と特別教室にエアコンが設置されたとの報告が出される一方、（PC室には配備されているのに）教室どころか未だ保健室にさえも冷房設備がない地域の状況も出されました。北海道でも場所によっては30度を超える地域もあり、子どもたちが快適に学校生活を送れるための施設設備の充実を求める意見も出されました。

IIの柱『養護教諭をめぐる状況』では、妊娠時軽減措置（妊娠時加配）が複数配置校にも適用される、加配期間の縛りが撤廃されるなど配置条件の拡大が運動の成果として報告されました。その一方、複数配置校への妊娠軽減措置がないため、1日50人以上の来室がある学校では、妊娠障害で病気休暇をとった養護教諭も出ているとの大変な状況も出されました。また、全国的に定数内講師の増加や産・育休代替者不足、私学の配置状況（全校配置されていない、非正規率が高い）など配置をめぐる課題も出されました。

IIIの柱『組織強化、学習教研活動』では、養護教員部独自のリーフレットを作成し、送ったら職場に組合員がいないにもかかわらず、新採者の加入につながった。他県での講師経験者が新規採用になり加入してくれたなど、うれしい報告もあり勇気づけられました。

役員改選では立候補者14人全員が信任され、新体制がスタートしました。

最後に「今こそ、憲法の本質と安倍9条改憲の危険性を広く伝え、私たちの運動の原点である『教え子を再び戦場に送るな』の決意を新たにしていましょ。私たち養護教諭は、仲間同士の声かけなどを通じてこれからも助けあひながら『ともに学びあひ、つながる』とりくみを継続していましょ。」と呼びかけた総会宣言が採択され、全員で『連帯の拍手』をし、第29回定期総会を終了しました。

（野間 道代）